

川崎ダルク 脱「薬物」に女性専用施設

7月6日付○読売新聞

薬物依存症患者のリハビリを支援するNPO法人「川崎ダルク支援会」は6月、県内初となる女性専用施設「Cozy Place」(コージープレイス)を川崎市中原区に開所した。コージープレイスとは、居心地のよい場所という意味。女性に安心して話してもらうための環境を整備、女性職員が対応して、早期回復を目指す。繁華街のビル3階にある一室。約60㎡の室内には植物やソファ、木目調の家具が置いてあり、落ち着いた雰囲気だ。女性は、身近な男性から勧められて薬物に手を出すケースも多い。回復には異性を気にせず、正直に体験や心境を話せるくつろいだ空間が重要という。相談・問い合わせは同会(044-798-7608)。

精神科病院で入院患者絞殺 同室の男逮捕

7月6日付○毎日新聞

7月5日午後7時55分ごろ、新潟県の精神科病院で男性当直医から「入院中の患者が別の患者を殺したようだ」と通報があった。駆けつけた署員が病室内で、同県の69歳の男性患者が床に横たわって死亡しているのを発見。同室の50歳の無職の男が「首を絞めた」と話したことなどから、男を殺人容疑で現行犯逮捕した。逮捕容疑は同日午後7時10分～同20分の間、男性患者の首に腕を巻き付けて絞殺したとしている。病室は男と男性患者の2人部屋で、男は調べに対し「(男性患者の)せきがうるさいと注意して口論になったため、攻撃されないようにやった」と話しているという。男は2007年ごろから入院していた。

被告逃走の病院が謝罪 「不安与え、道義的責任感じる」

6月3日付○日本経済新聞

精神鑑定のため福岡市の精神科病院に留置中だった佐賀市の32歳の飲食店従業員の被告が一時逃走した。被告は4月3日に入院し、外に面した窓がない院内で最も厳重に管理された個室に入室。穏やかに過ごしていたため同14日、別の個室に移した。被告はこの個室の外に面した二重ガラスを割って逃走。病院はベッド頭部のスチール板を外して割ったとみており、院長は「部屋を移さなければ逃亡を防げた可能性もある」とした。

鑑定留置を引き受けた際、佐賀地検から「逃走の恐れはない」と説明されたといい、院長は「逃走は予想外」と話した。監視役として警察官の派遣を裁判所に要請しなかった理由は「医療界では監視役要請は一般的でなく、我々も(通常)行わない」とした。

水中毒で入院患者死亡 病院に賠償命じる判決

7月3日付○読売新聞

宮崎市の女性(当時36歳)が過剰な水分摂取による「水中毒」で死亡したのは、入院先の病院が水分摂取を制限する適切な措置を取らなかったためとして、女性の父親が病院を相手取り、約4000万円の損害賠償を求めた訴訟の判決が宮崎地裁であった。裁判長は病院側の過失を認め、約3500万円の支払いを命じた。判決によると、女性は統合失調症を患い、2012年、同市の病院に入院。病室の洗面台で水を大量に飲み、水中毒による急性低ナトリウム血症を発症し、同日、死亡した。裁判長は、水中毒の主な原因は抗精神病薬などの副作用でのが過剰なこととした上で、「看護師らに対し、洗面台の水道の元栓を閉めるように指示する

などしていれば死亡を防ぐことができた」と指摘した。

精神科病院の 居住施設への転換容認へ

7月1日付○毎日新聞

精神科病院に長期入院している患者の地域移行を進める方策を議論してきた厚生労働省の検討会は7月1日、退院促進で空いた病床を居住施設に転換することを条件付きで容認する報告書をまとめた。精神病床の居住施設への転換を巡っては、障害者団体などが「病院による患者の囲い込みが続かぬない」として反対していた。日本では約34万の精神病床に約32万人が入院。このうち1年以上の長期入院が約20万人に上り、病床数、長期入院とも先進国では突出して多い。報告書では、こうした入院中心の精神医療を改めるため、入院の必要性が低い患者の退院を促進して病床を削減する構造改革が必要だと指摘。その上で、患者が退院して不必要となった病床については、高齢などを理由に退院には否定的な患者の受け皿として活用することを容認。ただし居住施設への転換の際は、本人の自由意思の確保や利用期間の制限を設けるべきとした。この日の検討会では患者や家族のほか、医療側の委員からも「改革に消極的な病院の延命策になりかねない」との批判が相次いだ。報告書がまとめられた。

2020年度メドに健康保険証などを マイナンバーに一元化

6月24日付○産経新聞

政府は24日の閣議で、個人情報保護を1つの番号で管理する「マイナンバー制度」の開始に伴って交付される「個人番号カード」について、2020年をめどに健康保険証などと一元化することを盛り込んだ新たなIT戦略を決定した。